

— 通学合宿に参加して —



篠山産業高等学校3年生
小西隆一くん

班のリーダーとして子どもたちの生活をサポートしてきましたが、まとめていくのはとても大変でした。でも、子どもたちの相談にのったり、身の回りの世話をしたりと、とても貴重な体験となりました。来年は高校を卒業しますが、ボランティアとして参加したいですね。

去年参加してみてとても楽しかったから、今年も参加してみようと思いました。地域の皆さんと囲碁ボールで遊んだことや、いろいろなお話ができたこと、小さな子ども仲良くなれたことがとても印象に残っています。来年もあれば絶対参加しようと思います。



篠山中学校1年生
小林可織さん



城南小学校4年生
栗田佳林さん

合宿に参加して、多くの友だちができてよかったです。去年も楽しかったけど、今年はずっと楽しかった。一番楽しかったのは、寝る前の肝試しや枕投げ。家に帰ったら、合宿で覚えた料理を家族のみんなで作ります。来年も参加して、いろいろな子たちと話をしてみたいです。



城南校区通学合宿実行委員会コーディネーター
小林美穂さん(真南条中)

通学合宿を地域に根ざした活動に

昨年、小林さんと共に通学合宿に携わられた大山一郎さんは、「子どもたちが、大人になってもボランティアとして参加できるような、未来永劫続く活動になることを願っています」と話されていました。

動
リ
ポ
ー
ト

城南校区

10月25日から城南コミュニティセンターを合宿所に、2泊3日の日程で行われた城南校区の通学合宿(城南校区通学合宿実行委員会主催)。高校生4人をリーダーに、小学3年生から6年生の28人、中学生6人の計38人が参加し、交流を深めました。合宿中は、PTAを始め、自治会、老人会、愛育班、いずみ会、更生保護女性会の皆さんなどが親代わりとなり、合宿生活を見守りました。

い出しに。食材を買った後、地域の皆さんと一緒に調理や盛り付けをこなしました。夕食が終わると後片付けをし、地域の皆さんのお宅へ「もらい風呂」へ。子どもたちは短い時間でしたが、地域の皆さんとふれあいの時間をもつことができました。また、就寝前には肝試しを行ったり枕投げをしたりして大騒ぎ。消灯時間になっても、その興奮からなかなか眠りにつけない様子でした。最終日は、地域の皆さんとのふれあいタイム。子どもたちは火おこし体験や囲碁ボールを行い交流を深めました。そして、おわりの式では子どもたち1人ひとりが、3日間を振り返り感想を述べるとともに、お世話になった皆さんに感謝の気持ちを伝え、通学合宿に幕を閉じました。

6時	起床・洗顔・身じたく
7時	朝食・後片付け
8時	登校
	学校生活
16時	下校・自習時間(宿題など)・食材の買い出し
17時	夕食作り
18時30分	夕食・後片付け
19時30分	入浴(もらい風呂)
21時	交流タイム・自習時間
22時	就寝準備・消灯

昨年引き続き行われた城南校区の通学合宿。同実行委員会コーディネーターの小林美穂さんは「参加者が増えたことや、昨年体験した子どもたちが多数参加したことに、この合宿が地域に根付いてきたんだということを実感しました」と話されます。

子どものころ、地域の皆さんに助けられ育った体験から、地域で子どもを育てなければならぬとの思いで、通学合宿に取り組まれている小林さん。「子どもたちには、通学合宿を通して地域にかかわってほしいと思います。さらに、この合宿を市内全域に広げ、違う校区の子とも交流できれば」と期待を込めて話されています。

また、小林さんと共に通学合宿に携わられた大山一郎さんは、「子どもたちが、大人になってもボランティアとして参加できるような、未来永劫続く活動になることを願っています」と話されていました。



近隣家庭での「もらい風呂」(城南校区)



枕投げで大はしゃぎ(城南校区)



昔の生活の大変さを学んだ「火おこし体験」(城南校区)



夕食の準備に奮闘(大苧校区)



学校から帰るとすぐ宿題(古市校区)



地域の皆さんと「もちつき大会」(古市校区)



地域の皆さんと囲碁ボールで交流(城南校区)



特集 **通学合宿**
～地域で育てる子どもの力～

みんなそろっての楽しい夕食(大苧校区)

親元を離れた子どもたちが、公民館などで共同生活をしながら学校に通う通学合宿。この合宿では、子どもたちが協調性や自主性を伸ばし、「生きる力」を育ててほしい、そんな大人たちの願いが込められています。

今年度市内では、7月の西紀北校区を皮切りに乾新町、大苧・城南・古市校区で152人が参加し、実施されました。ここでは、城南校区の取り組みを中心に子どもたちがどのような生活を送ったのか紹介します。

■問い合わせ
篠山市子どもの居場所づくり推進協議会事務局
(篠山市教育委員会生涯学習課内) ☎552-5769



みんなそろって登校(古市校区)

今年度、通学合宿に取り組み始めた地域や校区を紹介します。

11月1日から3日まで古市コミュニティ消防センターで行われた古市校区ふれあい合宿。同実行委員会委員長の山口貢二さんは「初めての通学合宿でしたが、昨年8月に『まちづくり防犯グループ』を結成したこともあり、スムーズに進めることができました」と振り返られます。

合宿には、小学4年生から6年生までの20人が参加。子どもたちのサポート役として、大学生の藤田好二さんが宿題や面倒を見られたそうです。「今回は、中学生や高校生の参加がなかったので、今年参加してくれた6年生が来年中学生として参加してほしいですね」と話されます。

また合宿最終日には、子どもたちは地域の皆さんと囲碁ボールや、もちつきをして交流を楽しむとともに、感謝の気持ちを込めた手作りのプレゼントを贈り、合宿を終えました。山口委員長は「合宿を通して、子どもたちは地域とのかかわりを一層深めました。今後は、来年2月に立ち上げる『古市地区まちづくり協議会』が主体となって、合宿を充実させていきたい」と力強く話されていました。



通学合宿を充実し 地域とかがわろう

古市校区ふれあい合宿実行委員会
委員長 山口貢二さん
(波賀野新田)



もちつき大会では、子どもたちがついたおもちを地域の皆さんに配りました

市内初の集落単位の取り組みとして、通学合宿を行われた乾新町自治会。「いぬいっ子」通学合宿実行委員会委員長の大森和也さんは「乾新町は、もともと人権啓発劇団『いぬい劇団』やデカンショ祭などへの出演を通して、地域の皆さんとの結びつきは深く、何かやろうとすれば、一つにまとまる体制ができていたんです」と話されます。

9月20日から1泊2日の日程で乾新町公民館で行われた合宿には、小学3年生から6年生までの14人と中学生4人の計18人が参加しました。中学生が総括班長、小学6年生が班長となり4班を編成。互いに協力しながら、食事や掃除などの身の回りのことを自分たちで行いました。

また「もうい風呂」を始め、地域の方から「紙ひこうきのはなし」を聞いたり、「おもしろい紙芝居」をみたりするなど、地域の皆さんともふれ合いました。「合宿を通じて、子どもたちがより親しげに話しかけてくれるなど、人間関係がさらに深まりました」と話される大森委員長。今回は自治会行事として委員会を組織して行いましたが、次回は自治会のより広い皆さんの協力を得て取り組みたい」と熱い思いを話されていました。



2日目の献立は焼きそば。子どもたちは力を合わせて夕食のしたくを行いました

集落単位の取り組みで 地域の結びつきを強める

「いぬいっ子」通学合宿実行委員会
委員長 大森和也さん
(乾新町)



7月11日から13日まで草山地区コミュニティ消防センターで、ふれあい合宿を行われた西紀北子ども会では、小学5・6年生と中学生が中心となって実行委員会を立ち上げ、準備を進めてきました。同子ども会会長の尾平悦子さんは「合宿には幼稚園児から中学生までの51人が参加しましたが、実行委員の皆さんのおかげで、子どもたちも合宿を楽しみ、きずなを強めました」と喜ばれています。

さて、同委員会では募集チラシの作製に始まり、スケジュールや食事の献立などを企画。互いに協力し合えるように、全員の役割分担も決められたそうです。尾平会長は「子どもたちは大人の指示がなくても、自主的に動いてくれました」とうれしそうに話されます。

合宿では、2日目に地域の皆さんを迎えた食事を開いて交流を深めるとともに、最終日にはビンゴゲームをして、みんなで仲良く楽しめたそうです。「2泊3日の合宿を通じて、西紀北っ子はとても仲が良かったということを実感しました。子どもたちには、この合宿を来年も引き継ぎ、地域とのかかわりをさらに深めてほしいですね」と笑顔で話されていました。



はじまりの会の様子。実行委員の皆さん手作りのふれあい合宿がスタートしました

子どもたち手作りの合宿で 地域との交流を楽しむ

西紀北子ども会
会長 尾平悦子さん
(本郷)



大牟校区で初めての通学合宿が11月1日から3日まで福井公民館で行われ、同校の児童24人と高校生1人の計25人が参加しました。大牟通学合宿実行委員会主催。同実行委員会委員長で大牟活性化委員会少子化対策部会部会長の長田明彦さんは「子どもたちがそれぞれの役割を果たしながら、無事に生活を送れたことをうれしく思います」と話されます。

今回、小学1年生から6年生までの全校児童の半数が参加して行われた大牟校区。ずっとここで寝泊まりしたいと、子どもたちには大好評だったそうです。「初めは、低学年の子どもたちに共同生活を送ることは難しいと思いましたが、高学年の子どもたちがうまくリードしてくれました。中でも、高校生の藤田峻介さんが、うまくサポートしてくれたんです」と感謝されます。

また、「この合宿を通して、年の離れた子どもたちがまるで、きょうだいのように遊んでいるのがとても印象的でした」と話される長田さん。「この取り組みは、子どもたちにとって地域の皆さんとふれ合う良い機会となりました。地域の活性化につながっていくことを願っています」とほほ笑みながら話されていました。



通学合宿を通して 地域活性化につなげよう

大牟活性化委員会少子化対策部会
部会長 長田明彦さん
(中)



食事の後片付けの様子。高学年の子が低学年の子たちをうまくリードしました

篠山市子どもの居場所づくり推進協議会（柳本晃代会長）では、通学合宿の検討課題を把握し、今後の活動につなげていこうと、先日通学合宿を行われた大芋・城南・古市校区の子どもたちを対象に通学合宿に関するアンケート調査を行いました。
ここでは、そのアンケートの調査結果の概要をお知らせします。

今回の通学合宿に関するアンケートでは、大芋・城南・古市校区の小中学生から高校生までを対象に調査を行い、61人の子どもたちから回答をいただきました。さらに、このアンケートに併せて、通学合宿に対する保護者の皆さんの声も聞かせていただきました。

こと「みんなで食事をしたこと」「食事を作ること」などの意見が半数以上を占めていました。
また、問3の「通学合宿でいやだったことを選んでください」には「いやだったことはなかった」と回答しているのが36人。問4の「通学合宿を来年も実施したら参加しますか」では「他の家の子どもと一緒に生活するなんてめったにできない」などの理由で、46人が「参加する」と回答しています。

通学合宿に関するアンケート結果(抜粋)

問1 通学合宿は楽しかったですか

- ①たいへん楽しかった 61人
- ②楽しくなかった 0人
- ③どちらでもない 0人

問2 通学合宿で楽しかったことを選んでください(複数回答可)

- ①もらい風呂 51人
- ②食事を作ること 36人
- ③みんなで食事をしたこと 37人
- ④みんなで寝たこと 44人
- ⑤みんなで通学したこと 23人
- ⑥自由時間 42人

問3 通学合宿でいやだったことを選んでください

- ①いやだったことはなかった 36人
- ②もらい風呂 3人
- ③食事を作ること 4人
- ④みんなで食事をしたこと 1人
- ⑤みんなで寝たこと 0人
- ⑥みんなで通学したこと 0人
- ⑦自由時間 0人

問4 通学合宿を来年も実施したら、参加しますか

- ①参加する 46人
- ②参加しない 1人
- ③分からない 13人

※その理由を書いてください。
・他の家の子どもと一緒に生活するなんてめったにできない
・来年には高校を卒業するので、ボランティアとして参加したいと思っています

その他【保護者の皆さんの主な感想】

- ・子どもたちは普段、地域の皆さんとふれ合う機会が少ないので、大変有意義な合宿だったと思います
- ・今の時代、忘れてしまいがちな他人との交流や作法などを学べる良い機会となりました
- ・通学合宿を終えて、子どもがとても積極的になりました
- ・通学合宿を通じて、あらためて子育てを見直す良い機会となりました
- ・サポートに入る親の負担が大きかったように思います。サポートできない家庭は、子どもが参加したくても親が手伝えないと気軽に参加できないのでは…

教育長へインタビュー



かんなんひでかず 教育長 河南秀和

地域総がかりの取り組みで通学合宿の継続と充実を願う

近年、少子化や核家族化が進み、塾や習い事などにより子どもたちを取り巻く環境が多様化する中、子どもたちと地域社会との結びつきは希薄になり、異年齢集団の形成は困難となっています。このような中、篠山市では平成13年度から、子どもたちが集団生活の中で社会性を身に付け、地域の皆さんとの交流によって地域社会とのかかわりを深めてもらうと、通学合宿に取り組んできました。

通学合宿は、平成13年度に城東公民館が日置小・篠山東中学校、篠山産業高等学校校東雲校の児童や生徒たちを対象として、「きょうだいづくりワクワクキャンプ」と題し実施。平成14・15年度も継続して行いました。平成17年度からは子どもの居場所づくり事業の一環として、教育委員会生涯学習課と今田公民館が今田校区の子どもたちを対象に開きました。次年度は、今田と城南校区で行われ、特に城南校区では、それまで公民館や教育委員会といった行政が主導して進めていたものを地域主導型に転換する大きなきっかけとなりました。

そして、今年度は城南校区での取り組みが土台となり、通学合宿の実施や運営を地域が主体となって行う事業と位置づけました。今年度通学合宿を行われたのは5団体。4団体が小学校区で、残り1団体が自治会で実施されました。小学校区で行われた4団体は、いずれもPTA役員や保護者の皆さんが核となり、地域の各団体に協力を呼び掛け、実行委員会形式で取り組んでいただきました。

さて、城南校区では、昨年度体験した子どもたちが今年も数多く参加してくれました。このように、リーダーの皆さんが多く参加したことは、小学校から中学校、中学校から高校、そして、高校を卒業すれば運営支援の役割を担う指導スタッフとして、継続した新たな参加も期待できます。

ところで、保護者の皆さんの中には、「通学合宿に子どもが参加すると、自分も参加して手伝わなければならぬ」と負担に感じている方もいらっしゃるかも知れません。通学合宿は保護者の皆さんが行うのではなく、地域が一体となって行っていたらどうかというところを、地域が育てるという認識のもと、地域総がかりで取り組んでいただければと願っています。

通学合宿を通して、子どもたちはたくましく成長し、地域の皆さんとのより強いきずなを結んでくれることを期待しています。地域と子どもたちのつながりが深まり、より安全・安心な地域づくりが進むとともに、ふるさとを愛する心をもった子どもたちが育つために、その1つの核として、通学合宿が継続、充実していくことを願っています。